

ごあいさつ

—『地域未来創生センタージャーナル』第6号の刊行に寄せて—

地域未来創生センター（IRRC = Innovative Regional Research Center）は、北日本考古学研究センターとともに、弘前大学特定プロジェクト教育研究センターとして、2014年（平成26年）4月に弘前大学人文学部（現在の人文社会科学部）に設置されて、本年度で6年目を迎えました。

設置以来、当センターは、人文社会科学分野の特定の専門領域に立った教員各人の学問的専門性に依拠しつつ、社会実装の視点に立って、学術研究を社会貢献・地域貢献を一体化させるという明確な意図の下に、ユニークな研究活動を展開してきました。その目的は、地域の関係者の方々の御支援・御協力のもと、多方面にわたって進めている地域密着型の学術研究の成果を地域社会の活性化に役立てるということに尽きます。

この度、地域未来創生センターでは、2019年度（令和元年度）の研究成果の一端として、『地域未来創生センタージャーナル』第6号を刊行する運びとなりました。『地域未来創生センタージャーナル』第6号の刊行をとおして、当センターが本年度に実施した多方面にわたる研究成果の一端を、地域の関係者の方々をはじめとする多くの有識者の方々と共有させていただくことは、非常に大きな喜びとするところであります。

地域未来創生センターが設置されている人文社会科学部（Faculty of Humanities and Social Sciences）は、設置から、本年度で完成年度にあたる4年目を迎えたところです。

わたくしたちが人文社会科学部を設置した目的は、きわめて明確であります。

今後、日本の社会が多文化共生社会へと変貌していくことが予想されるという状況の中で、地域社会もグローバル化と共生の時代に対応していくことを求められています。

人文社会科学部がそのような時代に相応しい人文社会科学系の専門人材の育成に重点を置いていることは、本学部が「多元的な文化理解と多様性認識、地域の文化を含む自国の文化の創造力・発信力の養成に力を入れつつ、地域課題を含む現実の諸課題の解決に重点をおいた実践型教育を提供することによって、地域社会の活性化に寄与する人材を育成する」ことを教育目的として掲げているという点に端的に表れています。

地域未来創生センターの役割は、上記の教育目的に沿った人文社会科学部の人材育成の基本理念に立って、地域志向型の学術研究を推進していくことによって「地域に開かれた大学」としての弘前大学の機能を具体化していくことにあります。

今後も、地域未来創生センターへのご支援とご協力を宜しくお願い申し上げます。

2020年2月1日

弘前大学人文社会科学部長

今井正浩